

5. 河北地区（大川地区）の震災被害

北上川河口右岸は、「大川」と呼ばれ、漁業・農業が産業の中心で、2,500人ほどが暮らしていた。海からの津波と川をさかのぼった津波に襲われ、多数の犠牲者が出た。河北総合支所管内では、450人以上の市民が死亡・行方不明となり、その多くは大川地区の住民であった。

特に大川小学校では、襲来した津波により児童74人、教職員10人が死亡・行方不明となった。

また、長面地区の水田(約224ha)の大部分が水没するなど、地盤沈下が著しく、捜索・救助が困難であったことはもとより、復旧・復興をも困難にさせた。



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲針岡



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲針岡



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲針岡



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲長面



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲長面



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲長面

6. 雄勝地区の震災被害

雄勝地区は、リアス式海岸の地区で、震災前は約4,300人が暮らしていた。主な産業は漁業で、その他に硯をはじめとする石材加工業が有名である。

それぞれの湾奥にある集落は、低地を中心に大きな被害を受けた。特に、雄勝病院は入院患者全員と職員の多くが死亡・行方不明となった。

雄勝小学校の児童教職員は、保護者からの強い進言により裏山からさらに高いところへ避難し無事だった。



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲雄勝町雄勝 小沢



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲雄勝町伊勢畑 雄勝



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲雄勝町桑浜羽坂



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲総合支所屋上から



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲雄勝町伊勢畑

7. 北上地区の震災被害

北上地区は、北上川左岸の橋浦地区とリアス式海岸の十三浜地区に分けられ、震災前は、約3,900人が暮らしていた。リアス式海岸である十三浜地区で大きな被害を受けた。

特に北上総合支所は避難所となっていたが、屋上を超える津波が押し寄せ、職員・避難した市民らの多くが犠牲となった。



▲十三浜吉浜



▲十三浜吉浜



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲十三浜月浜



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲橋浦



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲北上町橋浦行人町 (JA いしのまき北上)

8. 牡鹿地区の震災被害

牡鹿地区は、リアス式海岸の半島部および網地島・金華山の離島がある地域である。震災前は、約4,500人が住んでいた。震源に一番近く、津波は市内でも早く到達し多くの被害を出した。地盤沈下も著しく、震災直後には1.2mも沈下した地点があった。

地区全体では、100人以上の方が亡くなっているが、人口比からすれば他地区より率が低く、津波に対する意識が高い地区であったといえる。



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲小淵浜西出当



石巻市/東日本大震災アーカイブ宮城

▲牡鹿公民館



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲十八成浜



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲十八成浜



石巻市 / 東日本大震災アーカイブ宮城

▲鮎川浜